

# 活動報告書

2017-2020  
annual  
report



地域・教育魅力化  
プラットフォーム  
Platform for Sustainable Education and Community



note | 地域・教育魅力化プラットフォーム  
本誌に掲載したインタビュー記事は  
WEB版を公開しています。





地域・教育魅力化  
プラットフォーム  
Platform for Sustainable Education and Community

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム  
〒690-0886 島根県松江市母衣町33番地5 母衣ビル3階  
TEL.0852-61-8866 FAX.0852-61-8867  
MAIL: info@c-platform.or.jp  
http://c-platform.or.jp/

 地域・教育魅力化プラットフォーム

 <https://www.facebook.com/c.platform.or.jp>  
 @platform\_sec

【発行】2020年12月



# 全国へ広がる魅力化 チームから

鳥根県海士町から始まった「魅力化」が、全国へと広がっている。「スケールアウト」を目指してきた地域・教育魅力化プラットフォームの3年間の取り組みを、海士町の隠岐国学習センター長、豊田庄吾さんはどう見ているのだろうか。

# 「文化」へ



## 学び合う場の存在が大きかった

「魅力化」は、それぞれの現場で教育を磨き取り組みです。島前でも始まり、鳥根県、全国へと広がっているというところは、「教育を磨こう」という思いを持った人が各地に揃っているということ。短期間でここまで広がるには、魅力化PFの存在が欠かせなかったと思います。

まず、都道府県の枠を超えた高校へ通う「地域みらい留学」の参加校が全国68校にまで増えました。魅力化に取り組み学校が集まる場にもなっているし、何よりも、子どもたちにとって、「地域で学ぶ」という新しい選択肢ができた。それぞれ学校で取り組むだけでは難しかったと思います。



豊田 庄吾

隠岐国学習センターセンター長  
福井県大牟田市出身。情報開発会社、人材育成会社を経て、2015年に海士町に赴任。高校の危機に直面していた鳥根県立隠岐島前高等学校の魅力化プロジェクトに参画し、高校地域連携推進協議会「隠岐国学習センター」を立ち上げる。高校と協働し、新しい学力観に基づく探究的な学びづくりに取り組むながら、人口減少時代の未来を切り拓く「意欲ある島いず」を象徴する「時代学校下野館」を創るべく挑戦中。

## 「やり方」ではなく「あり方」

もう一つは、文字通り「プラットフォーム」として機能したということです。「魅力化をやりたい」という人に「仲間に入りませんか？」と呼び掛けることができるようになった。それぞれの現場のあり方や課題を共有できる「共学共創の場」ができたことで、広がりも加速しました。「魅力化に取り組んでいくと、明らかに教育がよくなります。高校生が生き生きとしてくるんです。地域で活動をして、さまざまな人と関わり、すこしいい表情で自分の思いを語るようになる。そういう場面に全国各地で出会うようになりました。

もちろん、人の行動や大事にしていること、学校の文化が変わることは簡単ではありません。魅力化が機能するために最も重要なことは、「魅力化の本質」をその地域の多くの人が理解していることだと思っています。

人は「答え」を急ぎがちですが、「こうすればうまくいく」という唯一解はありません。そうではなくて、「自分の地域や学校にとって、良い教育とは何かのか」ということを、関係者が膝を突き合わせて対話して、実践して、探究し続けるというところ。How to do（やり方）ではなく、How to be（あり方）。この本質をもっと伝えていきたいです。



## 魅力化を

## 「文化」に

魅力化が広がり、日本の教育を変えるまでには、変化が自然に生まれる「生態系」が必要だという思いで取り組んできました。一定の成果はありましたが、核となっていて人が異動などではないなかつたら、機能しなくなってしまう地域が多いのではないのでしょうか。必要なことは、魅力化を「文化」にしていくことです。その地域の文化になれば、人が替わっても続いていきます。

## 文化にして

## いくためには？

一つは、教員研修の中に魅力化を盛り込み、教員の理解を果レベルで上げていくこと。理解が広がっていくと、人の異動があっても大きな方向性は変わらなくなる。特に、管理職の理解は重要です。

もう一つは、地域の側でできること。例えば、その地域で育ち、外に出た高校生にとって、「戻ってこれる場所がある」ということは重要ですね。そう考えると、地域に住み続けている人、その地域に暮らす大人たちのあり方が重要です。

島前でつながりの核になるのが卒業生です。3年間、この島で学んだ彼らの存在は非常に大きい。彼らとのつながりをつくるために、2019年から卒業生限定の「大人の実践ゼミ」を始めています。大人になった彼らのそれぞれの学びを、みんなが支える場です。

ゼミでは、各地に散らばった8世代の卒業生が、それぞれにやっていることをオンラインで発表して、話し合っています。安心安全な場があると、自分をさらけ出せるし、「俺は応援しているよ」とか「一緒にやってみよう」とかを自然と言いつつ仲間も出てくる。小さなものも含めて、挑戦する人がいて、周りに応援する人もいる。とにかく大人が輝いて、地域の担い手になっていくって、この地域で暮らして幸せだということが、地域の未来につながっていく。次はこの文化をつくる仕組みづくりに取り組みたいと考えています。



# チームで進める 魅力化

大崎上島町  
大崎海星高校

全国各地で「魅力化」が広がっている。その一つが、広島県大崎上島町と県立大崎海星高校。2014年、統廃合の危機に町と学校が立ち上がり、いまでは町外からの「留学」希望者も地元中学校からの進学者も増えている。でも、大崎上島が目ざされているのは「数字」ではない。取り組みを進める「チーム」の存在だ。

## 「仕事図鑑」 が入り口に

「このままでは高校がなくなる」と必死でした。海星高校の魅力化推進コーディネーター、取釜宏行さんは14年を振り返る。2月、県教委が「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」を発表。3年の猶予期間後、在籍生徒数が2年連続80名未満となれば、統廃合などが検討されることになった。町では少子化

に加え、町外の高校に進む子どもも多く、当時の全校生徒は67人。「閉校」は現実的な言葉だったという。

その夏、当時から「地元の高校のために何かしたい」と考えていた取釜さんは、閉校の危機を知り、現在同じくコーディネーターを務める円光歩さんと動き出す。最初に取掛かったのが、高校生と作る「島の仕事図鑑」だった。



や農業などの28組を生徒が取材し、その素材をデザイナーが組み上げた。結果は好評で、「第2弾はいつ？」という声も上がった。「仕事図鑑が入り口になった」と取釜さんは振り返る。「生徒が目に見えて成長しました。地域に出ると、生徒が変わる」と大人たちが実感できた。何をやるのか、どんな効果があるのかを共有できたことは大きかったと思います。

## 必死に、「大枠」から

本格的な地まりは翌15年春、それに先行して、学校は魅力化推進チームを立ち上げ、取釜さんを地域のコーディネーターとして引き入れた。「とにかく、やる。そうしないと潰れてしまうと、目の前のことで必死でした」と取釜さんは言う。「大枠」から始めようと、先進地に視察に行き、塾や公営塾をつくり、地域学習を設計し、実践していききました。「かなり苦戦した」というのが生徒募集だ。「何十万円を使って東京で説明会をやっても、誰も来ん。途方に暮れました。だから、地域みらい留学やフェスタの存在はありがたい。説明さえできれば、あとは「魅力」で勝負できますから。」



広島県立大崎海星高等学校  
広島県田原郡大崎上島町に位置する。広島県立大崎海星高等学校。生徒数の減少により閉校の危機にさらされていた2015年に高校魅力化プロジェクトがスタート。全国専業の例、「大崎上島学」や公営塾「神楽学舎」、地域住民や地元企業と連携した「島の仕事図鑑」などに次々と着手。2020年現在、生徒数が右肩上がり増加し、全国各地から入学希望者が訪れる高校へと変貌を遂げている。2017年度「キャリア教育優良校」、文部科学大臣表彰を受賞。

## 「学校が動きよる」

成果は着実に表れている。16年度には入学生が30人を超え、18年度には全校生徒数が1000人を超えた。19年度からは、高校の教員研修に「魅力化」が組み込まれるようになり、魅力化への理解も格段に高まったという。「海星高校は面白い」と20年度に校長に就任した大久保信行さんも言う。「学校が動きよる。教員からも『やろうよ』というアイデアが出て、それがバツとできる。地域の声の学校に聞けてくれるコーディネーターの存在の大きさを感じています」

「教育の島」を掲げる町は、学校との連携を深めるために「教育の島推進室」を設け、新たな県立中高一貫校の誘致に成功し、19年春には広島県習字園が開校した。推進室の主任主事、古坂圭さんは「町の中学生にとって、海星高校が積極的な選択肢になってきた。魅力化の効果は大きいです」と話す。

## 「チーム」だから続く

町と学校、地域をつなぐコーディネーターに任命された取釜さん。「学校に入っていくハードルはそれほど感じなかった」と当初を振り返る。町と学校、それぞれの覚悟が大きかったという。

「町長は『高校がないと町の存続が危うい』と積極的で、当時の校長も『地域とのハードルはゼロにする』と前向き。トップの二人が姿勢を示したことで、『なぜやるのか』ではなく、『どうやるのか』から議論を始めることができました」。取釜さん、関係者や団体が「チーム」として動いていることに気づく。



## 「魅力化」は続けること

大崎海星高校コーディネーター 円光 歩さん

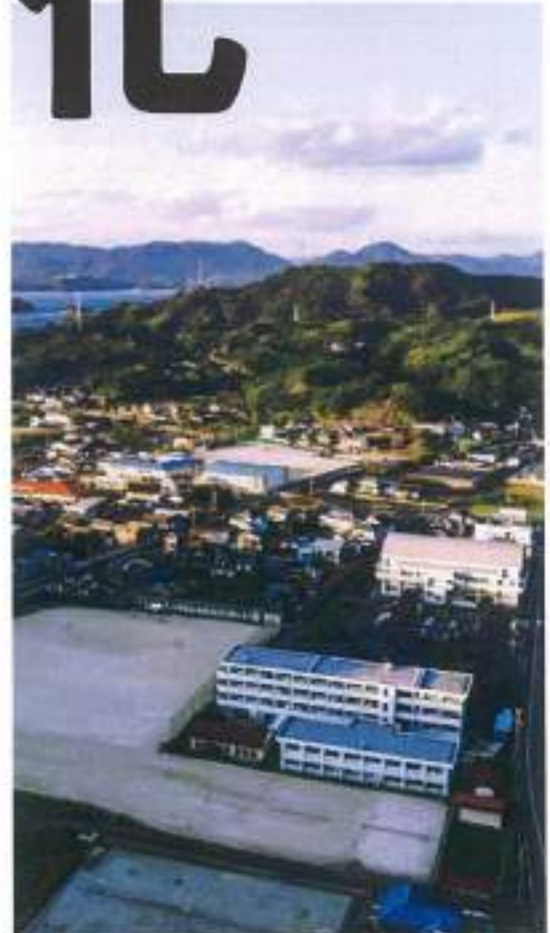
大崎海星高校の魅力化コーディネーターとして、取釜宏行さんと入会した円光歩さんは、大崎上島に生まれ育った海星高校を卒業し、東京で働きながら、再び地元に戻ってきた。円光さんは「魅力化」で、大崎上島の未来に貢献したい。円光さんは「魅力化」で、大崎上島の未来に貢献したい。円光さんは「魅力化」で、大崎上島の未来に貢献したい。

### 「たまたま」 コーディネーター

「島の教育に関わりたい」と思っていました。取釜さん、円光歩さんと出会ったのは、大崎上島の教育に関わりたいという思いからでした。取釜さん、円光歩さんと出会ったのは、大崎上島の教育に関わりたいという思いからでした。

### 「地味なこと」 続けるだけ

「地味なこと」を続けるだけ。円光歩さんは「地味なこと」を続けるだけ。円光歩さんは「地味なこと」を続けるだけ。円光歩さんは「地味なこと」を続けるだけ。







●「地域みらい留学365」との重複校

24道県 63校 地域みらい留学

山口県	岡山県	鳥取県	和歌山県	奈良県	兵庫県	滋賀県	三重県	新潟県	福井県	山形県	青森県	北海道
加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校	加計高等学校

### 地域みらい留学365

7道県 12校

山形県	北海道
小国高等学校	北海道川内高等学校

#### 【地域みらい留学365】

内閣府と（一財）地域・教育魅力化プラットフォームが共同で2020年度から立ち上げる、「地域みらい留学365」。将来的な関係人口の創出・拡大を目指す。高等学校段階における地域留学を推進するため、全国から高校生が集まるような高等学校の魅力化に取り組む地方公共団体を支援する取組です。高校生が、在学する高等学校とは別の地域の高等学校において1学年を過ごします。2020年度は12校が採択されました。

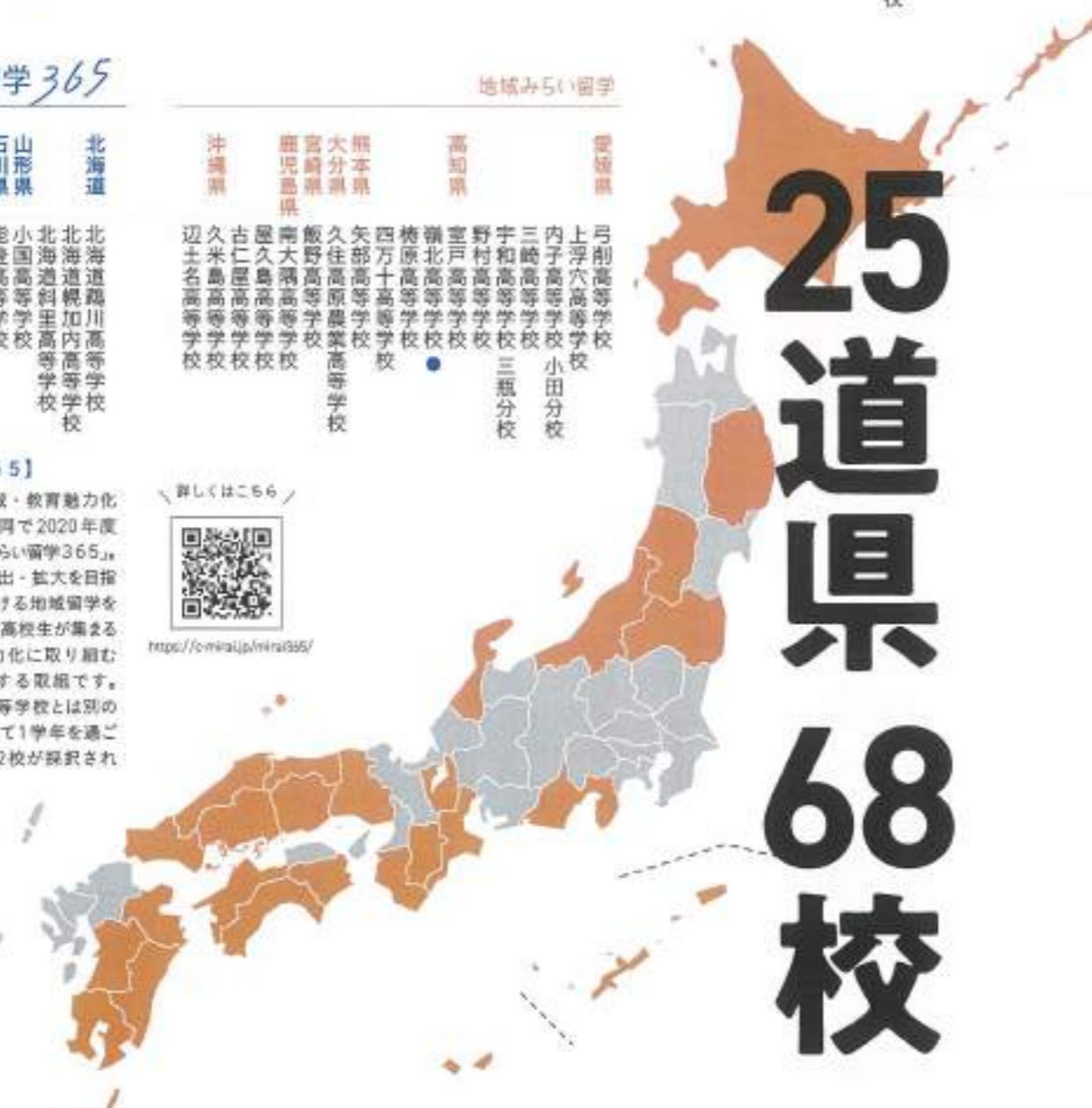
詳しくはこちら



<https://c-mirai.jp/365/>

### 地域みらい留学

愛媛県	高知県	徳島県	香川県	岡山県	広島県	山口県
上野高等学校	三ツ井分校	三ツ井分校	三ツ井分校	三ツ井分校	三ツ井分校	三ツ井分校



### 目指したのは「偶発的な出会い」



地域・教育魅力化プラットフォーム  
地域みらい留学推進事務局 辻田 雄祐

2020年度の地域みらい留学フェスタは、新型コロナウイルスの影響でオンラインでの開催を余儀なくされた。結果的には、7~9月の6日間で延べ約3500名が参加し、「偶発的な出会い」も生まれたという。

フェスタは、参画校と地域みらい留学に興味のある人たちとをマッチングしていく重要なイベントです。オフラインのフェスタでは「呼び込み」があるので、参加者は、生徒や先生たちの雰囲気を感じながら、いろいろな学校の説明をのぞくことができました。

オンラインでもこの出会いを生もうと考えたのが、テーマ別説明会です。参画校を「鳥の学校」などいくつかの特徴でグループ分けし、1コマで3~4校のプレゼンを開けるようにしました。参加者からは「より自分に合いそうな学校を見つけた」という声があり、参画校からは「これまで来なかった地域の生徒とつながった」という声を聞きました。「自分に合った高校を全国の中から探し、選んでいく」という地域みらい留学の「裾野」が広がった感覚があります。

意外だったのは参画校からの反響が大きかったことです。「ほかの地域の取り組みや教員の思いを聞いてよかった」と多くの学校関係者から聞きました。ほかの学校の発表を聞いてプレゼン資料を磨き直した学校もありました。フェスタが高校同士の共学共創の場になったことも新たに生まれた価値です。来年度以降も続けていきたいと思えます。

### 2020年「地域みらい留学フェスタ」

#### 参加者の声

- 登壇してくださった教職員、在校生、卒業生と会話でき、会場説明会よりもむしろ距離が近く感じた。
- 先輩や先生達を通して、その学校の和やかな雰囲気が伝わってきた。

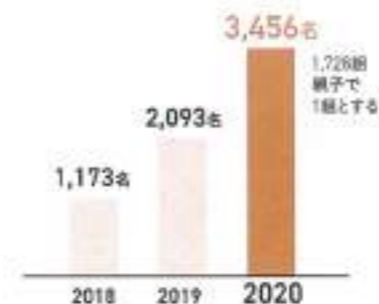
#### 参画校の声

大崎海星高校の円光さん「うちも説明会に取り組んだことがあったが、知名度がまだ低く、そんなに生徒が集まらない。地域みらい留学のありがたみが分かる」と話していた。

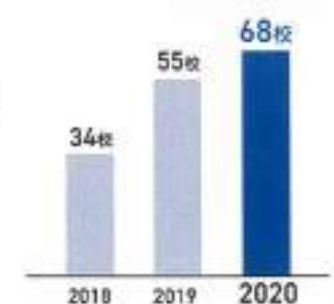
「地域みらい留学」とは、北海道から沖縄まで日本の各地域にある魅力的な学校に入学し、充実した高校生活をおくること。豊かな自然、ここでしかできない体験、少人数教育など、都道府県の枠を超えて挑戦できる取り組みです。

# 全国に広がる 「地域みらい留学」 「地域みらい留学365」

地域みらい留学フェスタ 来場者数



地域みらい留学 受け入れ(参画)校



※2020年度は、オンライン開催で全国から参加。地域みらい留学と地域みらい留学365を合わせた数字です。



# 高校魅力化 評価システムと 「学びの土壌」

地域・教育魅力化プラットフォームは、地域みらい留学をはじめ「高校を核とした持続可能な地域づくり」を全国に広げるために活動しています。高校魅力化は、生徒、学校、地域の変化にどのようなつながりがあるのでしょうか？



図1 高校魅力化評価システム。で表える4つの要素・能力の構成

「高校を核とした持続可能な地域づくり」を全国に広げるために活動しています。高校魅力化は、生徒、学校、地域の変化にどのようなつながりがあるのでしょうか？

「高校を核とした持続可能な地域づくり」を全国に広げるために活動しています。高校魅力化は、生徒、学校、地域の変化にどのようなつながりがあるのでしょうか？



図2 魅力化評価システムの仕組み



図3 魅力化評価システムの仕組み。棒グラフで評価結果を示す。

2019年度は、文部科学省「地域と協働による高等学校教育改善推進事業」の「POCAサテライト機関のための調査研究」として、当該事業の指定校において、取組みを評価するツールとして「高校魅力化評価システム」が導入されている。

## 高校統廃合に伴い市町村総人口の1%が転出超過 高校魅力化により総人口は5%超増加

高校魅力化評価システムと同時に、人口・経済への影響の見える化の開発を行った。調査結果の概要は次の通りである。

### 高校の存続・統廃合が地域社会に及ぼす影響の一考察

全国の市町村の人口動態と高校統廃合の関係性について、過去に高校統廃合がなされた市町村と、高校統廃合がなされなかった市町村との比較により考察を試みた。

- 1990～2019年の約30年間で、1市町村に1つの公立高校が存在していた市町村の約2割において公立高校が消滅。
- 統廃合により高校が消滅した市町村では、高校統廃合直前の5年間で総人口の1%超が転出超過。

また、鳥取県内の高校を事例とした高校魅力化の社会・経済的効果の推計の結果については「約10年間高校魅力化に取り組んできた地域の総人口は、高校統廃合していた場合と比べ、総人口を5%程度高止まりさせている(2017年時点)」「地域の消費額は、3億円程度増加(2017年)し、雇入も1.5億円程度の増加(同)」としている。

地方創生では、いわゆる「高校魅力化」が重要な要素として位置づけられている。それにもかかわらず、地方における高校統廃合は急速に進んでいる。しかし、高校を魅力化して、地域内外の人材育成の場として存続し、さらに地方創生の拠点とする重要性は海士町をはじめとする鳥取県における実践が早くから示している。今回の共同研究によるレポートは、このような高校存続の取り組みが、地域の人口にプラスの効果をもたらす、さらに地域経済振興に果たす役割も大きいことを実証した。それを、信頼できる統計分析により示した点は画期的である。地元高校の存続は地域の多くの人々の願いであるが、それを政府や地方自治体はサポートすべきであることを明らかにしたと言える。

明治大学 小田切 徳美 教授  
第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に関する  
有識者会議等、各種有識者会議の委員等務める

【資料はこちら】  
鳥取県・鳥取市が共同で実施した調査の一環として、市町村の人口動態からみた高校存続と、統廃合のインパクト  
https://www.muragis.repo.nii.ac.jp/policy\_research/policy\_research\_191122\_1/  
鳥取県の高校魅力化の社会・経済効果の分析、鳥取県レポート  
https://www.muragis.repo.nii.ac.jp/policy\_research/policy\_research\_191122\_2/

# 変化に必要なのは コーディネーターする 「機能」

全国に広がる「魅力化」では、各地で学校や地域、行政をつなぐコーディネーターの活躍が目立つ。しかし、地域・教育魅力化プラットフォーム(魅力化PF)の奥田麻依子さんは、「コーディネーターを制度として定着させよう」という議論の中で、学校や地域が変わっていくためには、コーディネーターという「機能」よりも、コーディネーターする「機能」が必要だと感じるようになったという。魅力化PFと鳥取県教委を往来する奥田さんに話を聞いた。

## 「今が国の制度を 変えるチャンス」

2012年から6年間にわたって鳥取県立鳥取南高等学校のコーディネーターを務めた奥田さんは、地域との連携づくりや生徒のプロジェクティブな活動、全国展開の広範な活動、さまざまな業務を担ってこられた。こうした経験から、学校と地域が連携する「ハブ」として、コーディネーターが必要だと考えるようになった。

「今が国の制度を変えるチャンス」という思いで魅力化PFの仕事に取り組んでいます。コーディネーターを国の制度にしていこうとする議論の中で大きかったのが、2019年度に文科省の「地域との協働による高等学校教育改善推進事業」の研究会に事務局として関わったことです。

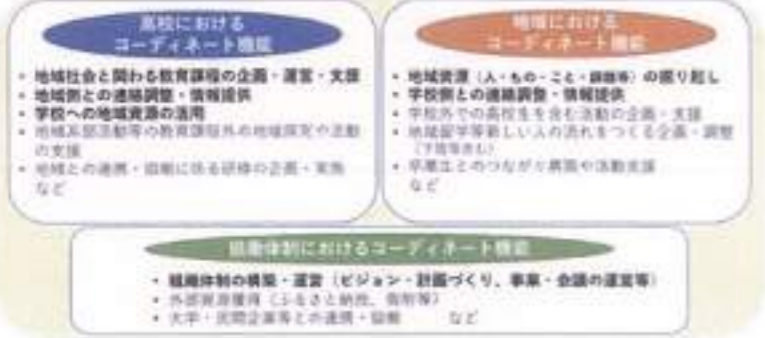


図4 高校と地域をつなぐコーディネーター機能の位置づけ

## コーディネーターの 役割を分類

取りまとめられた報告書「高校と地域をつなぐコーディネーター機能の充実に向けて—社会に開かれた教育課程と高校を核とした地方創生の実現を目指して—」(写真)には、こんな記述がある。

一高校と地域をつなぐコーディネーターは、現場の切実な必要感から、現在全国で140名を超えるほどまで広がってきている。しかし、その配置や育成に関わる国の制度や仕組みが追いついていないため、現場では任意的な人材不足と場当たり的な配置・育成が目撃されているという状況が見えてきた。(P10)

こうした課題を解決するための前提として、研究会では、これまであいまいだったコーディネーターの役割を「機能」として分類することを試みたという。

機能は「高校」「地域」「協働体制」の3つに分けられた。これらは報告書(P14)の中で、図4のようにまとめられている。



写真 高校と地域をつなぐコーディネーター機能の充実に向けて—社会に開かれた教育課程と高校を核とした地方創生の実現を目指して—

コーディネーターの役割を「機能」として分類してみたところ、学校の先生の方が得意なことも、地域の住民が担ったほうがよきような場面もありました。分類できたことで、全ての機能を一人で背負う必要はなく、

## 「なぜ必要か」から 「どう進めるか」に

また、魅力化が広がっていく中で、コーディネーターの役割も変わってきているように感じます。初めのコーディネーターは、まず学校や地域に対して、「魅力化が必要だ」ということを認識してもらおうと「なんか始めなければいけません」と、その役割の強い「スパーコーディネーター」のような人が多かったと思います。でも、今は「必要だ」ということを前提にした上で、「どう進めていけばいいのか」と悩んでいる地域や学校が多い印象です。目指す方向が明らかになっていけば、その機能は何人かで分担できます。



高校時代に大切なのは、裾野を広げておくこと。異質なものと対話する力は、世界を救う。

人間は、言葉を使ってコミュニケーションをとる動物です。対話をする。そして、対話により問題を解決できる。ここに、人間らしさや人間性しかできないという要素が置かれていると考えると、価値観が異なる相手と、それぞれの立場を理解したうえで双方の善悪を語り合わせ、解決策を生み出す。それは、ティスカンやディベートではなくダイアログ（対話）でしか成し遂げられないことです。例えば、対話のない文明はあり得ない。対話、それが文明をつくるという考えに基づいて行われているのが、私も理事として関わっているアスペン・セミナーです。私たち人間には、専門家同士が分断を生み出してしまったという過去があります。アスペン。そうした反省に基づき、立ち上がりました。

同様のことが、今、世界で起こっています。第二次世界大戦が終わってから70年以上経ちますが、再び当時のような世界的な分断の嵐を感じ、大変焦っています。人を攻撃しているだけでは、何も生まれません。大事なものは、遠いのある者同士が互いに対話をするか、ということ。今の日本の政治を見ていても、攻める人、守る人の構図ができてしまっていて、誰も対話しようとしていない。「対話と分断」は、私の中でとても大きなテーマとなっています。そんなときに、「地域みらい留学」の話を聞きました。これはとてもいいなと思いました。都会で生まれ育った生徒がいゆる田舎の学校に行くと、例えば地元のおじいちゃんとか商店のおばちゃんとか、今までに出会ったことがないような人、自分とは年齢も経験もまったく違う人と話をする。これは、言っ



**ビジョンパートナー 岩井 睦雄 様**  
日本たばこ産業(株) 株式会社 取締役副会長  
1983年日本専売公社(現・日本たばこ産業)入社。経営企画部長、執行役員 食品事業部長を歴任。海外では専売子会社「インターナショナル専売社」代表取締役社長として専売事業部長を経て、2020年3月に取締役副会長に就任。(株)日本たばこ産業、(株)ダイアログ・ジャパン、(株)久慈堂などの理事も務める。

**ビジョンパートナー 養田 秀策 様**  
一般財団法人100万人のクラシッククラブ 代表理事  
みずほコーポレート銀行で日本における海外マフィア取引調査や、シンジケートローン市場の調査を行う。みずほコーポレート銀行を退社し、世界最大のプライベート・エクイティ・ファンド運営会社 コールバーグ・クラビス・ローデックに入社。2015年、大手音楽家のエコノミクスを主催する一般財団法人100万人のクラシッククラブを設立し代表理事に就任するとともに、一般大学大学校校長 研究科長兼副学長、株式会社デジタル・ホールディングス取締役、株式会社東洋インテック取締役も務める。

人生のオーナーシップは自分が握る。決められた枠を超え、異質と出会い、人とつながろう。

私は、金融業界に長く身を置いてきました。金融とは何の枠も作り出さない世界です。そういう世界にいるから、実際に体当たりで世界を変えようとしている人たちが世の中に知らしめたいという思いもありません。でも、何もせずに自分のことだけを考えている人、言っていることとやっていることとが一致していない人、そういう世界にメスを入れたかったです。

現在、一般的に教育の多いクラシック音楽をもちと日常的に楽しめる場所を作ろうというプロジェクトがあります。私自身、幼少期を過ごす場所ではクラシックにはまったく興味がなかったのですが、あるとき、目の前で演奏を聞き、まさに心が震える思いがしたんです。素晴らしい音楽と同時代に心が揺れかかっている。そして、その場にいた人たち同士が心を通わせる。そんな体験を多くの人と共有したいと考え、私自身も「100万人のクラシッククラブ」の活動を始めました。

地域みらい留学 「ビジョンパートナー」からのメッセージ

**同質を集めて枠にはめる時代は終わり。異質と出会い多様性のなかでもまれ、感じ考える体験が、人を育てる。**

地域みらい留学の先駆けとなった高校県立隣校異質高校を実際に訪問しました。海士町では、高校生たちと車座になって対話をする機会があり、留学生がみんな「なぜ自分にはここに来たのか」をしっかりと語れることに驚き、また同時に、この子たちは偶然ここに来たわけではなく、中学生のときから自分の頭で考え、選択し、行動してきた子たちなんだと理解しました。今の都会の高校生は、両親と先生以外の大人と話をする機会がほとんどありません。一方、異質高校を訪ねたことが、地域の大人の存在が近いということ。町長も役場の人も商店のおばさんも、みんなが県立高校である異質高校のことを、自分たちの高校、異質高校のことを、自分たちの子どもと認めている。地域にあって不可欠なものであるから支えよう、育てようという考えが透き通っている。この学校と地域との一体感が人を育てていることがわかりました。



**ビジョンパートナー 安淵 聖司 様**  
アサヒ生命保険株式会社 代表取締役社長 兼 CEO  
早稲田大学政経学部中、ハーバードビジネススクールMBA、三菱商事、ソフトバンク、ジャパネット東海を退社。2007年GEコマース・ファイナンス、ジャパネット東海CEOに就任。2009年、GEキャピタル・ジャパネット東海CEOに就任。2017年ビザ・ワールドワイド・ジャパン代表取締役社長に就任。2019年4月より現職。

**ビジョンパートナー 竹原 啓二 様**  
(株)フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長  
香川県豊田市出身。(株)日本リクルートセンター(現・リクルート)入社。1993年に同社取締役。2000年に東洋電機役員に就任。1997年からNPO法人21世紀教育研究所の理事を務め、不登校児童の支援にあたる。2024年にリクルートを退社し、国立大学東京大学理事に就任。2027年に(株)フューチャー・デザイン・ラボを設立。

地域で起きていることを自分ごとに加え、動く。なんとかが解決しようとする。そういう大人はカッコいいですよ。インクルーシブな社会を実現するための光を海士町では感じましたし、何とかしようと思っているカッコいい大人に囲まれない環境だと感じました。

同質性でくっついてお互いを批判するのではなく、互いに違いを理解し受け入れ、多様ななかで採り合っていく。いろんなことを感じ、考え、価値観を形成していく。まさに、海士町は人生の模範体験とも書えると思います。そう考えると、都会の学校はなんでもそろっているように見えて、実は、大人が選んだものだけが集められた環境なのかもしれません。

今後、地域みらい留学の動きがさらに拡大して、中学生にとって当たり前の選択の選択肢の一つになることを願っています。どの時期、きまどきなフェーズがありますが、間違いなく高校3年間は大きい。人生を変えようとする時期です。その時期にある子どもたちが、言葉と行動という物差しだけで自分を測るのではなく、探究型の学びや体験を通して自分の強みや特性を発見する3年間を過ごすことが、とても価値のあることだと思います。

地域みらい留学の次の目標は、卒業生をどうつないでいくか。アルムナイ組織を作ったり、卒業生が始めたいことが次の目標に向かい、自分の道を発見する。そういうことができればさらに良くなると思います。

地域・教育魅力化プラットフォームは3年を迎え、地域みらい留学生も800人を超えるまでになりました。そして、これからの10年を思い描いたときに、ビジョンを共有し、新しい発想とアイデアで力強く一緒に未来を築いていくために、日本を代表するリーダーの方々「ビジョンパートナー」となっていました。ビジョンパートナーの皆さんが思い描かれる未来についてお聞きしました。

**異質との出会いこそが人を育てる。さあ、「当たり前」の世界から飛び出そう。**

東大で副理事を務めていたときに、海外からの留学生の就業支援を行うキャリアサポート事業に携わりました。留学生と東大生が選り合う機会も多かったのですが、留学生にとってだけでなく東大生にも大きな刺激になり、いい経験が出て、新しい発想が生まれて、異質のもの同士がインテグレートしていくなかで新しいより強いものができるといふ実感があり、まさに「異質との出会いこそが人を育てる」を肌で感じました。そして、東大に在籍している留学生だけでなく、日本に在籍している留学生もみなこの輪を広げたいと考え、フューチャー・デザイン・ラボを立ち上げました。せっかく日本の大学に留学しても、留学生のコミュニティができてしまつて日本人学生のコミュニティや地域のコミュニティとはなじまずに閉鎖してしまう。というケースが少なくありません。異質同士が出会い感じ合う機会を作り、「地域みらい留学」の話を初めて聞いたときに、これも「異質との出会い」だと思っただけです。東京や大阪といった都会で生まれ育った高校生は、その環境を出た前には、まったく異なる環境で、全国から集まった同世代の生徒たちと選り合い、地域の大人と一緒に活動する。これって、その子の人生にとってすごく貴重な3年間になるだろうな、という確信がありました。

距離の近さ、親近感により動かしやすかった。都会で経験できないようなことも、都会の大きな学校だと、生徒同士がお互いに、名前も知らない。それが良いか悪いかわからない。自分にとって、「当たり前」の世界を飛び出すことに、大きな意義があると思います。もう一つ、「地域みらい留学」で面白いなと思ったのが、地域社会に高校生を巻き込んでいくという在り方です。これまでは、高校生と社会人が一緒に活動して地域で活動するという発想もなかった。その背景には、社会を動かすのは大人だ。高校生はまだ子どもだという先入観があった。無意識に線引きをしていたのだと思います。でも、よく考えたら、高校生が選んで一緒に活動した方がいい。大人たちが気づいて見ぬ振りをしてきた問題や形骸化した常識に対して高校生が意見するというところもあるだろうし、いいじゃないかと、むしろ、高校生のパワーを使わない手はないですよ。このコベルニクスが面白い。これは、日本の教育において、大きなチャレンジだと思います。

都会も田舎も両方とも日本の姿です。結果として若いうちにとちも体験しておくというのは、日本の現状を知るという意味でも、とても貴重な機会だと思います。そして、これまで守られてきた壁のものを壊れ、見知らぬ土地で自分で、生活をするというのは、それ自体がとても価値のあることだと思います。「地域みらい留学」というプラットフォームができたことで、地域のハードルは格段に下がっています。高校生で地域ができる下で、すくく異質な人、異質との出会いの機会を、ぜひお子さんにも作ってあげてほしいと思います。



「共感が生む社会への挑戦」



江戸300藩の時代、いま世界が驚く日本の食文化、技術、芸術、そして教育までが藩ごとに自治成立し、進化し、誇れる日本は全国分散で作られてきた時代があった。そして意志ある地方の若者が新しい日本を創ろうと立ち上がった。明治維新、富国強兵、殖産興業、集団就職からいつしか「若者は都会へ」という流れが常態になり、この流れに疑問を持ちつついまだ加速してゆく現代。この先に「豊かな時代」は来るのか？

そんな思いから「地域みらい留学」を始めてやっと3年。

社会に風穴を開けられるところまでは、未だいきませんが、想定以上の追い風を感じ始めています。

確かに既存の壁は高いけれど、想像以上の共感と応援をいただける驚きがこの事業のエンジンとなっていることを実感しています。

コロナ禍の中、我々もこの流れを止めてはいけなさと、必死の一年になりました。

そして、なんとか流れを止めない今期の地域みらい留学になったのではと思っています。

この陰に、全国25道県・68校の方々の必死の思い、共感いただいた方々の資金やボランティア含めた事業運営メンバー50名超のパワーがこの事業の原動力になっています。

改めて感謝を申し上げるとともに、このレベルにとどまらない事を御誓い申し上げます。

最後に、この一年を通じて、本事業のようなビジネスモデルが成立しにくい社会課題領域において、共感支援のエネルギーが大きな社会成果を生む、まさに共感経済モデルの可能性を強く感じています。

是非皆さまと、若者や地域の未来をというだけでなく、新しい共感エネルギーが社会を作る価値ある挑戦を続けさせていただければと思っております。

感謝をこめて

理事・会長  
水谷 智之

代表メッセージ

目指す未来



代表理事  
岩本 悠

意志ある若者が育つ魅力ある教育環境を展開し、持続可能な地域・社会をつくる。私たちは、その「かけがえのない一助」となる。

私たちは小さく偉い存在でも、社会を大きく変えていくこの上なく大切な価値を共創するものでありたい。この時に、この存在なしには生まれえなかった意志ある未来を私たちはつくっていきたい。

誰かが補填でき、多様な子どもたちが幸せに学びあえる社会に開かれつなげる教育環境。

つくりたい未来に向かいさきと挑戦している若者たち。

子どもたちが憧れるカッコいい大人にあふれ人の運命が生まれている地域。

持続可能な社会づくりを牽引し「ソーシャルイノベーションの輸出大国」「課題解決先進国NIPPON」と呼ばれている日本。

そんな未来をつくるかけがえのない一助になりたい。そんな未来を皆さんと共創したい。

今まで本当にありがとうございます。そして、これから。未来へともに。

「かけがえのない一助となる」



代表理事  
NPO法人カトリック代官事務所  
地域みらい事業部長

今村 久美

学校の先生だけでなく、多様な人達が、多様な価値観や専門性、そして高い志をもち、教育に参画することで、いろいろな大人が育って集って子どもたちのサポートしてあげる社会になるという事。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

中村 健吾

どんな環境や状況でも自分の未来は自分でつくることのできる環境に生きていきたい。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

佐藤 真由

多様な価値観を受け入れられる社会。自分で自分の未来を創る人が増える社会。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

伊藤 大貴

チャレンジングなことが出たり自分の社会を実現したい。失敗を恐れ、やらない理由を探しがちだけれども、まずは行動。異なる背景が交わる瞬間を一人でも多くの人に体験してもらいたい。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

安田 健司

ありたい自分である土地に根を張る。根付いた場所で眠る。時にはおもしろい瞬間がある。色んな人が集る。色んな人が集る。色んな人が集る。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

長島 あゆみ

元気なオトナがあふれる社会。元気なオトナ。自分自身が納得して人生を歩んでいる人。そんなオトナを見て、「こんな風に生きたい」と感じる子どもたちが増えたらいい。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

藤村 一行

どのような状況にあっても、自分自身の可能性や他者との関係性の中で生まれる多様な社会の可能性を信じ、前進し続けられる文化を育てていきたい。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

横川 春菜

自分らしい進路、キャリア選択を応援したい。子供も大人も学び合えるイキイキ、ワクワクした地域づくりを支援したい。

「メンバー」からのメッセージ

ビジョンの実現に向けて共に働くメンバーから、地域みらい留学やしまね事業に向けて、「こんな未来をつくりたい」「こういう社会をつくりたい」を集めてみました。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

尾田 洋平

自分たちの地域や社会の「未来は創れる」と信じ、自ら行動する若者、大人に連れられ、日本をみんなと一緒に創りたい。



しまね事業部長  
しまね事業部長

田中 りえ

生徒も先生も、また地域のおじいちゃんやおばあちゃん、行政やNPOや企業や保護者さんや卒業生たちも、みんな一緒に「教育の未来」を創りたい。そんな社会を日本にしたい。



しまね事業部長  
しまね事業部長

森山 裕介

どんな環境に生まれ育っても、未来は創れる。一人ひとりの生きた想いを大切にする。社会を創る。社会を創る。社会を創る。



しまね事業部長  
しまね事業部長

岡部 有美子

自分の未来は変えられる。自分たちの未来は変えられる。一人ひとりの可能性が花を開くこと、仲間と共に歩みを進めること。そんな社会を創りたい。



フアンタレミアス事業部長  
フアンタレミアス事業部長

三成 由美

かっこつけなくていい。うまくやらなくていい。おもしろくやろう。一緒にやろう。そう、心から入る。行動できる。地域みらい留学を進める先には子どもとか、大人とか関係なく、誰もがそうなる未来がある。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

堀江 弥生

子供達が、「未来は自分達の手でつくっていく」と信じてくれる社会。それってどんな社会？周りの大人達が、イロイロあるけれど、イロイロと暮らしている社会。



地域みらい事業部長  
地域みらい事業部長

杉村 知美

でも何でもなくて、それをみんなが許せて、助けてあげられる。それが当たり前の生き方だと考えるようにまずは自分から。そして周りの身近な人へ。それが広がって社会全体へ。

Message from Members

この他にも全国各地にいる70人以上のパートナーと共に、つくりたい社会・目指す未来に向けて挑戦しています。

Message from representative



2019年度決算報告  
 (活動計算書 2019年4月1日～2020年3月31日)

活動計算書  
 2019年4月1日から2020年3月31日まで (単位:円)

科目	金額	前年度
<b>経常収益</b>		
1. 会費収入	55,379,390	
2. 助成金収入	131,981,877	
3. 事業収益	87,081,098	
4. その他の収益	204,896,788	
<b>経常収益合計</b>	279,339,153	274,896,788
<b>経常費用</b>		
1. 役員報酬	6,990,779	
2. 職員給与	27,083,842	
3. 福利厚生	3,848,899	
4. 支払手数料	4,847,992	
5. 雑費	42,141,148	
<b>経常費用合計</b>	45,912,660	42,141,148
<b>経常利益</b>	233,426,493	232,755,640
<b>経常損失</b>		
1. 役員報酬	796,281	
2. 職員給与	5,709,839	
3. 福利厚生	38,834	
4. 支払手数料	170,750	
5. 雑費	65,136	
<b>経常損失合計</b>	6,881,840	6,881,840
<b>経常利益</b>	226,544,653	225,873,800
<b>経常損失</b>		
1. 役員報酬	1,389,940	
2. 職員給与	89,899	
3. 福利厚生	440,000	
4. 支払手数料	187,169	
5. 雑費	235,006	
6. 役員報酬	5,467,855	
7. 職員給与	808,713	
8. 福利厚生	1,813,181	
9. 支払手数料	132,000	
10. 雑費	79,818	
11. 役員報酬	387,048	
12. 職員給与	232,793	
13. 福利厚生	8,004	
14. 支払手数料	392,944	
15. 雑費	40,000	
<b>経常損失合計</b>	12,968,419	12,968,419
<b>経常利益</b>	213,576,234	212,905,381
<b>経常損失</b>		
1. 役員報酬	109,816	
2. 職員給与	109,816	
<b>経常損失合計</b>	219,632	219,632
<b>経常利益</b>	213,356,602	212,685,749

財務会計報告書  
 (貸借対照表 2019年4月1日～2020年3月31日)

貸借対照表  
 2020年3月31日 (単位:円)

科目	金額	前年度
<b>資産</b>		
1. 現金	74,999,733	
2. 債権	23,252,199	
3. 固定資産	294,384	
4. その他の資産	2,734,670	
<b>負債</b>		
1. 短期負債	100,000,000	
2. 長期負債	893,017	
3. 純資産	820,057	
<b>純資産</b>		
1. 資本金	5,000,000	
2. 剰余金	100,000	
3. 準備金	13,494,316	
4. その他	95,000	
5. 繰上金	825,047	
<b>純資産合計</b>	19,414,463	19,414,463
<b>負債合計</b>	100,893,017	100,893,017
<b>負債と純資産合計</b>	120,307,484	120,307,484

※2017年度、2018年度の決算報告についてはPDF全文公開ください。  
<https://file.computer.org/organization/detail/1412191618/finance>



(一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム

■役員

理事長・会長 水谷 智之  
 代表理事 若本 悠  
 共同代表 今村 久美

■評議員

太田 直樹(総務省政策アドバイザー)  
 鈴木 寛(前文部科学大臣補佐官)  
 新田 英夫(鳥根県教育委員会 教育長)  
 大江 和彦(海士町長)

■監事

杉弘 健(公認会計士・税理士)

■アドバイザーボード

小泉 達次郎氏(衆議院議員)  
 須藤 修氏(東京大学教授)  
 藤原 良成氏(映画監督)  
 丸山 謙也氏(鳥根県知事)  
 宮崎 和秀氏(鳥根経済同友会幹事特別幹事)(2020年8月17日現在)

■スタッフ(15名)

地域みらい事業・しまね事業・コーポレート事業(事務局)

■パートナー(約70名)

■会員・寄付者(2020年3月現在)

マンスリーサポーター 198名  
 都度寄付 43名  
 ビジョンパートナー 5名

■ご支援いただいた助成団体

・日本財団「ソーシャルイノベーション支援事業(2016年～2019年)」  
 「学校を核とした地方創生のスケールアウト」  
 ・トヨタ財団「国内助成プログラム「そだてる塾生」(2020年度)」  
 「鳥根県の卒業生が地元に関わり続けられる「みらいカレッジ」の構築」

■受賞歴

・日本財団「ソーシャルイノベーション支援制度2016 優秀賞」(2016年)  
 ・一般財団法人日本ファッション協会「日本クリエイション大賞 教育文化貢献賞(2018年)」  
 ・共同通信社の他全国の地方誌46誌「第10回地域再生大賞 記念賞」

これまでの主な活動

実践型探究学習プログラム「マイプロジェクト」

新学習指導要領では、探究的な学びの重要性が指摘されており、何を学ぶかに加えて、学びのプロセスが主体的・対話的・深い学びになることが重要であるとされている。実践型探究学習プログラム「マイプロジェクト」は認定NPO法人カタリバが提唱し、全国に普及を図っている。マイプロジェクトとは、身の回りの課題や関心をテーマにプロジェクトを立ち上げ、実行することを通して学ぶ、実践型探究学習プログラム。大切にしているのは、小さくても実際に起こす「アクション」と、プロジェクトに対する「主体性」。不確かな時代だからこそ、高校時代に正解のない問題に向き合い探究することで、未来への創造力が引き出される。そう信じて、マイプロジェクトを日本全国の高校生に広げる取り組みを行っている。

2019年には、全国から2654プロジェクト、8765名の高校生が参加し、まもなく1万人の高校生が参加する取り組みとなっている。現在、マイプロジェクト事務局では、各地域や学校で探究学習やマイプロジェクトの導入を高校・行政・教育関係者などの伴走者向けに、サポートを行っている。



2017年度「全国高校生マイプロジェクトアワード」は地域・教育魅力化プラットフォームと認定NPO法人カタリバが共催で開催

海外展開推進事業

文部科学省「日本型教育の海外展開推進事業(EDU-Partニッポン)」に採択。鳥根県をはじめ全国に広がる「学校を核とした地域創生(学校魅力化プロジェクト)」をプアタンで展開し、学校と地域の協働による「地域の次代を担う人づくり」を推進した。

地域を越えた共学共創の取り組み(2018年～)

各地の高校魅力化が持続的に進化・展開していくためには、お互いが学び合い、触発し合い、新たな価値を共に創っていきけるつながりが重要。学校教職員や自治体、県教育委員会対象の共に学び、共に創る「共学共創」の機会を提供している。

■主な活動(共催、運営企画含む)

2017年

- ・社会に開かれた教育フォーラム(6月 東京)
- ・教育魅力化チーム推進プログラム(7月・9月・11月 鳥根)

2018年

- ・全国高等学校魅力化フォーラム(6月 東京)
- ・県外生徒募集に関するワークショップ(6月 東京)・しまねの教育の日フォーラム(11月 鳥根)
- 主催:鳥根県教育委員会
- 共催:(一財)地域・教育魅力化プラットフォーム
- ・ソーシャルイノベーションハイスクール(9月 東京)
- 主催:日本財団(企画協力)
- ・地域教育・高校魅力化の最前線を学ぶ2 days(11月 鳥根) 主催:鳥根県教育委員会

2019年

- ・共学共創ワークショップ(6月 東京)
- ・令和元年度「地域との協働による高等学校教育改革」全国サミット(10月)
- 主催:文部科学省(委託を受けて実施)
- ・全国地域教育魅力化フェスタ2019(11月)
- 主催:鳥根大学地域教育魅力化センター

2020年

- ・令和2年度「地域との協働による高等学校教育改革」全国サミット(10月) 主催:文部科学省(運営協力)



地域みらい留学  
 10,000円/10ヶ月  
 マンスリーサポーター  
 寄付・応援!

あなたのご支援が あの子の笑顔を  
 地域の未来をつくります。

ご支援・ご協力いただいた多くの皆様に感謝申し上げます。